

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 4月

「キリストの第二の誘惑」「恵みの目的」「忠実な管理」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「キリストの第二の誘惑」

4

朝のマナ

「恵みの目的」

8

神の驚くべき恵み

現代の真理

「忠実な管理」

39

後の雨を受けるためのわたしたちの準備 (IV)

力を得るための食事

「主食にもなる全粒粉クラッカー」

50

お話コーナー

「お気に入りの羽で飾った鳥」

52

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2012年3月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;

Sermonview p.9

Printed in Japan

## あなたはこれを信じるか

論争や議論によっては、魂に光が与えられない。われわれは仰いで見て生きなければならない。ニコデモは教訓を受け入れてそれを持ち帰った。彼は理論について議論するためではなく、魂にいのちを受けるために、新しい方法で聖書を調べた。聖霊のみちびきに身をゆだねた時、彼は天の王国を見はじめた。

あげられた蛇によってニコデモに教えられたのと同じ真理を学ぶ必要のある人が今日も幾千人となくいる。彼らは、神の律法に従うことが神のめぐみを受ける資格であると信じこんでいる。イエスを仰いで見て、イエスがめぐみによってのみ救ってくださることを信じなさいと言われると、彼らは、「どうして、そんなことがあり得ましようか」と叫ぶのである(ヨハネ 3:9)。(各時代の希望上巻 206, 207)。

「御子を持つ者はいのちを持」つ(ヨハネ第一 5:12)。……「あなたはこれを信じるか」とイエスは言われた(ヨハネ 11:25, 26)。……

人間の心は、キリストのみことばをなかなか理解できないので、マルタの信仰は、キリストの約束の真の意味を把握していなかった。キリストはマルタを責められたが、そのことばはこの上なくやさしく語られた。「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」(ヨハネ 11:40)。なぜあなたはわたしの力について疑うのか。……あなたはわたしのことばを持っている。もしあなたが信じるなら、あなたに神の栄光を見させてあげる。自然の不可能は、大能の神の働きを妨げることができない。懐疑と不信は謙遜ではない。キリストのみことばを絶対に信ずることこそ、真の謙遜であり、真に自己を放棄することである。(各時代の希望中巻 346 ~ 350)

神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださる。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされる。信ずるごとくなるのである。……

聖書には、こうしたみ約束がたくさんあるのだから、疑う余地はどこにもない。あわれな罪人が帰りたいと思い、罪を捨てたいと願っているのに、主はかれが罪を悔いて主の足もとに来るのを拒みになると考えられるであろうか。決してそのようなことを考えてはならない。天の父はそのような方であると考えることほど、魂を傷つけるものはない。……

疑い、わななく人々よ、目を上げて見ようではないか。イエスはなお生きて、わたしたちのために執り成しをしておられる。神が愛するひとり子をお与えになったことを感謝するとともに、かれの死がむだにならないように祈ろう。聖霊はきょう、あなたを招いておられる。全心をささげて、イエスのもとに行こう。(キリストへの道 65 ~ 72)

だから、すべての汚れや、はなはだしい悪を捨て去って、心に植えつけられている御言を、すなおに受け入れなさい。御言には、あなたがたのたましいを救う力がある。(ヤコブ 1:21)

受肉—キリストの性質

## 「キリストの第二の誘惑」

サタンは、食欲の点でキリストを打ち負かすという自分の目的において敗れた。そしてこの荒野で、キリストは食欲の点において人類のために勝利を得られたのであった。こうして将来にわたり、人がキリストのみ名によって自分自身のために食欲の力に打ち勝つことを可能にしてくださった。サタンは、世の賤い主に対して勝利を得るためにあらゆる手段を試してみるまでは、自分の努力をあきらめようとはしなかった。彼は自分自身にとって、この争いで自分が勝つかキリストが勝つかにすべてがかかっていることを知っていた。そして、自分のすぐれた力でキリストに恐れをいだかせるためにエルサレムへ連れて行き、宮の頂上に立たせて、このお方をしつこく誘惑し続けた。

彼はもう一度キリストに、もし本当に神の子であるなら、ご自分の置かれた目もくらむような高さから飛びおりて証拠を示すよう要求した。サタンは、宮から飛びおりることによって、守ってくださるご自分のみ父の保護への信頼を示しなさい、と強く迫った。食欲の点におけるサタンの最初の誘惑では、キリストの状況と飢えを神の恩寵のうちでない証拠として示すことによって、神の御子としてのキリストに対する神の愛と保護について疑いをほのめかそうと試みたが、それに失敗した。次に彼はキリストがご自分の天父へ示した信仰と完全な信頼を逆手に取り、憶測へかりたてようと試みた。もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんください。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」(マタイ 4:6)。イエスはすかさず答えられた、「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」(マタイ 4:7)。

### 憶測の罪

憶測の罪は、神への完全な信仰と信頼という徳のすぐそばにある。サタンは信頼から憶測への境界線を越えるようにせきたてるのに、キリストの人性を有利に用いることができるとうぬぼれた。この点において、多くの魂は難破した。サ

タンはお世辞を通してキリストを欺こうと試みた。彼は最も厳しい状況下の荒野で、キリストが神はご自分のみ父であるというその信仰と信頼において正しかったことを認めた。それから彼は、宮から身を投げることによって、神への完全な依存的証拠をもう一つ、ご自分が神の御子であるという証拠をもう一つ、彼に示しなさいと強く促した。彼はキリストに、もし本当に神の子であるなら、何も恐れることはない、御使たちがキリストを支えるためにすぐそばにいるのだから、と述べた。サタンは、聖句を用いることによって、彼が聖書を理解しているという証拠を示した。

世の贖い主は、ご自分の誠実さから揺らぐことなく、ご自分が御父の約束された保護への完全な信仰を持っていることを示された。このお方は、敵の手中にあつて、非常に困難かつ危険な立場におかれていたにもかかわらず、ご自分の御父の忠実さと愛を不必要に試したりはなさらないのであつた。サタンにほめかされても、このお方は僭越に神のみ摂理をためすことによって、神を試みるようなことはなさらなかった。サタンはこの場合にふさわしいかのように見える聖句を持ち出し、この特別な時に、わたしたちの救い主にあてはめることによって、自分の意図を果たしたいと望んでいた。

キリストは、ご自分が神から要求されて宮から身を投げたのであれば、神が本当にご自分を支えることがおできになることを知っておられた。しかし、サタンに言われたからといって、あえて命じられていないことをし、守ってくださる御父の保護と愛を試すことは、ご自分の信仰の強さを示すことにならないのであつた。サタンは、もし御父に命じられていないのに、天父の守りの保護に対するご自分の主張を証明するために、キリストに宮から身を投じさせることができるならば、その行為そのものにおいて、このお方の人性の弱さを示すことになるのを知っていた。

キリストは第二の誘惑において勝利者となられた。このお方は力ある敵との厳しい戦いのあいだ、御父への完全な確信と信頼を表された。わたしたちの贖い主は、ここで得られた勝利のうちに、人に完全な模範を残し、あらゆる試練と危険における神への堅い信頼と揺れ動くことのない確信のうちに唯一の安全があることを示された。このお方は天父がご自分を救うために御力をあらわす必要が生じるような危険に自らの身をさらすことによって、御父の憐れみにつけこむことを拒まれた。こうすることによって、ご自身の利益のために、み摂理を強いることにな

るのであった。そして、そのとき、このお方はご自分の民に神への信仰と堅固な信頼の模範を残すことにならないのであった。

キリストを誘惑するサタンの目的は、このお方を僭越な憶測へと導き、キリストがご自分の民のための完全な模範とならないように人間の弱さを示すようになることであった。サタンは、キリストが彼の誘惑のテストに耐えられなければ、人類のための贖いもなく、自分が彼らを完全に支配できると思った。

## わたしたちの希望と模範であられるキリスト

誘惑の荒野におけるキリストの屈辱と激しい苦悩は、人類のためであった。アダムにおいて、すべての者は不法を通して失われた。キリストを通して、人は神の恩寵へ回復される唯一の希望があった。人は神の律法の違反によって、あまりにも神から離れたために、自分の悲しむべき罪に見合うほど、神の御前に自らへりくだることができなくなった。神の御子は不法者の悪化する罪を十分に理解することができた。そして、ご自分の罪のないご品性のうちに、このお方だけが御父のご不興という苦悩を感じ、苦しみながら、人間のために受け入れられる贖罪を果たすことがおできになった。世の罪のための神の御子の悲しみと苦悩は、不法の大きさと同様に、このお方の神聖な卓越さと純潔さに比例していた。

キリストは万事におけるわたしたちの模範であられる。わたしたちのために食欲の誘惑に勝利して下さった荒野での長い試練と断食におけるこのお方のへりくだりを見るのだから、わたしたちは誘惑されたときに、この教訓を肝に銘じるべきである。もし食欲の力が人類家族に対してこれほどまでに強く、食欲の放縦が神の御子にこのようなテストを受けさせるほど恐るべきものであれば、わたしたちが食欲を理性の支配下におく必要性を感じるものがどれほど大事なことであろう。わたしたちの救い主は、ほとんど6週間近くも断食された。それは人間のためにご自分が食欲の点について勝利を得ることができるためであった。啓発された良心をもち、自分たちの模範として目の前にキリストをおく自称クリスチャンは、いかにして思いと心に活力を失わせるような影響を及ぼすこれらの食欲の放縦に屈することができよう。健康を犠牲にし、道徳力を弱めてまでも、自己満足にふける習慣が、この現代において、クリスチャン世界の大部分を奴隷のくびぎにっていないのでは、痛々しい事実である。

信心を公言する多くの人々は、荒野におけるキリストの長期間にわたる断食と

苦悩を、理性に問うまで考えない。このお方の苦悩は、飢えの痛みに耐えることからよりもむしろ、人類に及ぶ食欲と情欲の放縱の恐るべき結果の自覚からであった。このお方は食欲が人の偶像となり、神を忘れるように導き、人の救いの道に立ちほだかることをご存じであった。

レクテッド・メッセージ 1巻 281～284

# 神の驚くべき恵み

*God's Amazing Grace*



4月 「恵みの目的」

## わたしたちを神に引き寄せるために

「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた(あなたを愛の優しさをもって引き寄せてきた)。(エレミヤ 31:3)

生命と栄光の主は、神性を人性によっておおい隠し、神がキリストという賜物を通して人類をご自分に結びつけておられることを実地にお示しになった。神とのつながりがなければ、だれひとりとして幸福になることはできない。天父は、悔い改めた罪びとを、ご自身の愛のうちに抱擁し、しみなき神の小羊の功績によって生れ変らせるまでは満足なさらぬことを、墮落した人類は知らなければならない。

すべての知的存在者たちはこの目的のために働いている。彼らは罪のために天父から離れてしまった人類を連れもどすために、彼らの司令官のご命令のもとに働く。キリストの驚くべき恩恵と愛を世に表わすために一つの計画がたてられた。人類をあがなうために神のみ子キリストによって払われた無限の価の中に神の愛が表わされている。この輝かしいあがないの計画には全世界を救うことができるほど充分な用意がなされている。墮落した罪深い人間は、罪のゆるしとキリストによって着せられる義とによって、イエスのうちにあって完全な者とされることができる。(青年への使命 131, 132)

イエスがなさったすべての恵み深い行為のうちに、このお方は親のような慈悲深い神の属性を人々に印象づけようとされた。……イエスはわたしたちに御父の愛とこのお方がご自分の親としての愛を示すことによって、わたしたちをご自分に引き寄せようとしておられることを分からせたいと思っておられる。わたしたちの視界の全領域を神のご品性の完全さで満たしたいと思っておられる。……このお方は人々の中で生活することによってのみ、天父のあわれみ、同情、愛を表すことができた。なぜなら、このお方が神の恵みを示すことができたのは、ただ慈悲の行為によったからである。(神のむすこ娘たち 139)

キリストは神の愛を世に明らかにし、すべての人の心をご自分に引き寄せるために来られた。……救いへの第一歩はキリストの愛の引き寄せに応じることである。……キリストがご自分の愛のあらわれを通して人々を引き寄せられるのは、人々が許しの喜び、すなわち神の平安を理解できるためである。もし彼らがその引き寄せに応じ、自分たちの心をその恵みに明け渡すなら、このお方は彼らをご自身の満ち満ちた知識へと一步一步導かれる。そしてこれが永遠の命である。(セクレット・メッセージ 1 巻 323, 324)

## 心を変えるために

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。」(エゼキエル 36:26)

イエスが新しい心について語られるとき、それは思い、生活、その人全体を意味しておられる。心の変化を持つとは、愛情を世から退かせることであり、それをキリストに固定することである。新しい心を持つとは新しい思い、新しい目的、新しい動機を持つことである。新しい心のしるしは何であろうか。一変化した生活である。日々、毎時間、利己心と自尊心への死がある。(SDA バイブル・コメント [E.G. 柯什・コメント] 4 巻 1164, 1165)

放縦をやかましく要求する食欲と情欲は、理性と良心を足の下に踏みつける。これはサタンの残酷な働きであり、彼は自分の獲物を縛る鎖を強くするために、絶えず断固とした決心をしている。自分たちの生活すべてを悪い習慣にふけっている者は、いつも変化の必要に気づくとは限らない。……良心が目覚めるようにしなさい、そうすれば多くが得られる。神の恵みの他には、何ひとつ心に罪の自覚を与え、改心させるものはない。ここにのみ、習慣の奴隷が自分たちを縛りつけている足かせを壊す力を得ることができる。放縦な者は、もし彼らが神の律法の要求に応じたいのであれば、大いなる道徳上の回復が必要であることを見、また感じるようにと導かれなければならない。魂の宮は汚れており、罪深い放縦によって犠牲にされていた、神より賜った人間性を取り戻すために、目を覚まし、力の限りを尽くして奮闘するようにと、神は彼らにお命じになる。(教会への証 4 巻 552, 553)

ああ、なんと柔らかな美しい光がわたしたちの救い主の日々の生活のうちに輝き出したことであろう。なんといかぐわしさがそのみ前に漂っていたことであろう。この同じ精神がその子らのうちにあらわされるであろう。キリストがともにお住みになる者は、聖なる雰囲気に包まれるであろう。純潔という彼らの白い衣は、主の園のかぐわしいかおりを放つであろう。彼らの顔は主の光を反映し、つまぎき疲れ切った足の進む道を照らすであろう。

何が完全な品性を形造るかについて真の理想を持つ者は、キリストのような同情と優しさを必ずあらわすであろう。恵みの力は心を和らげ、感情を洗練し、清め、主の思いやりと礼儀についてわきまえさせる。(祝福の山 168)

## 平和と休息をもたらす

「しかし悪しき者は波の荒い海のような。静まることができない……神は言われる、『よこしまな者には平安がない』と。」(イザヤ 57:20, 21)

罪はわれわれの平安を破壊してしまった。自我を征服しないかぎり平安はない。人間の力では、心の中の支配的な欲情を制することができない。弟子たちが荒れ狂う嵐を静めることができなかったように、われわれはこの点において、無力である。〔マタイ 8:23～27 引用〕。だがガラヤの大波に平安を語られたおかたは、どの魂にも平安のことばを語ってこられた。どんなに嵐がはげしくても、イエスに向か……う者には救いがある。……イエスの恵みによって、人間の欲情との戦いは静まり、心はイエスの愛のうちに休まる。(各時代の希望中巻 61)

罪の生活から純潔な生活へと立ち上がろうともがく、ひとりひとりのために、「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては天下のだれにも与えられていない」唯一のみ名の中に大きな力の要素が宿っている(使徒行伝 4:12)。……罪悪に対する唯一の医薬はキリストの恵みと力である。人間の力でりつぱな決心をたてようとしても無益である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 154, 155)

どの汚れた情欲も、豊かに神の与えてくださった恵みによって聖化された理性の支配の下に保たれなければならない。わたしたちはサタンの魔力の雰囲気の中に生きている。敵は、キリストの恵みによって防壁を築いていないすべての魂の周りに、不道徳の魅惑を張りめぐらす。誘惑が来る。しかし、もしわたしたちが敵を見張って、自制心と純潔の均整を保つなら、誘惑する精神がわたしたちに及ぼす影響力はない。

誘惑を助長するようなことは何ひとつしない者は、誘惑が来ても、それに耐えるだけの力を得る。しかし、自らの身を悪の雰囲気の中に置き続けている者は、打ち負かされて、自分の忠誠から脱落しても、自分を責めるしかない。……

男女は自分を見張るべきである。彼らは絶えず用心して、自分たちの善が悪く言われるような言葉や行為を許してはならない。キリストに従っていると公言する者は、思い、言葉、行動において自らを純潔に汚れなく保ちつつ、自分を見張るべきである。他の人々への彼の感化力は高められねばならない。彼の生活は義の太陽の輝く光線を反映すべきである。……絶え間のない用心こそ、安全の代価である。(両親、教師そして生徒への勧告 257, 258)

## 神の律法を高める

「どうか、彼の口から教を受け、その言葉をあなたの心におさめるように。」(ヨブ 22:22)

日光に漂うほこりから天上の諸世界に至るまで、自然界のものはすべておきてのもとにある。そして自然界の秩序と調和は、これらのおきてに従うことにかかっているのである。それと同じく、すべての知的存在の生命を支配する偉大な義の原則があつて、宇宙の安寧は、これらの原則に一致するか否かにかかっている。地球が創造される以前から、神の律法はあつた。天使もこれらの原則によって治められている。そして、地が天と調和するためには、人もまた天のおきてに従わなければならない。「明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわつた」時にキリストは律法をお与えになつた(ヨブ記 38:7)。地上におけるキリストの使命は、律法を廃することではなく、その恵みによって人類を再びその律法に従わせることであつた。……

イエスの使命は「教を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする事」であつた(イザヤ 42:21)。イエスは、律法の霊的な性質を示し、その遠大な原則を教え、それが永遠の義務であることを明らかにされるのであつた。

この世のどんなに高尚で柔和な人も、キリストの品性のこうごうしい美しさにくらべれば、そのかすかな反映にすぎない。……イエスは、天父の本質の真の姿であり、その栄光の輝きである。地上における愛の生涯の初めから終わりまで、自己を犠牲にされた贖い主は、神の律法の性格の生きた表現であつた。キリストの生涯によって、天来の愛とキリストのような原則とが、永遠の公正という法則の基礎であることが明らかにされている。(祝福の山 60, 61)

聖書は人のために表現された神のご意志である。それは品性の唯一の完全な基準であり、人生のあらゆる状況における人の義務をはっきり示している。(教会への証 4 卷 312)

わたしたちは確信をもって神の許へ行き、自分たちの心のみ前に開いて、わたしたちの必要を告げ、このお方がわたしたちの祈りを聞いて、神のみ言葉の原則を実行する恵みと力を与えて下さることを信じていることができるような方法で、自分たちの生涯の働きを行わなければならない。(神のむすこ娘たち 365)

## 従う力を与える

「すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。」(ローマ 5:19)

全天であがめられているお方が、人類の頭として人間の性質を取って立ち、すでに備えられた神の助けを通して、だれでも神の戒めへの従順の道を歩むことができることを、墮落した天使たちと墮落していない諸世界の住民に証をするために、この世に来られた。……

神のひとり子と同等に聖なる者でなければ、すべての者を清めるほどの力ある犠牲、すなわち、最も罪深く墮落した者でさえも、救い主を自分の贖罪として受け入れ、天の律法に従順になるすべての者を救う力がある犠牲を捧げることはできなかった。それ以下のものでは、人を神の恩寵へ復帰させることはできなかった。(エレキッド・メッセージ 1 巻 309)

キリストは、人が神のかたちに回復されることを可能にするために、ご自分の命をお与えになった。人々を共に真理への従順のうちに引き寄せるのは、このお方の恵みの力である。(両親、教師そして生徒への勧告 249)

神はキリストという賜物によって、わたしたちが到達できるようにしてくださったその完全の標準に達することを望んでおられる。神はわたしたちが正しい側を選び、天の助け手と相たずさえて、神のみ姿をわたしたちの中に回復させる法則を実行するように招いておられる。神のみ言葉や自然という偉大な書のうちに神は、生命の法則をお示しになった。これらの法則に関する知識をもち、心身に健康を回復するためにこれに服従して彼と協力するのがわたしたちの務である。

人は、ただキリストの恵みを受けることによって、服従の全き祝福を得られるのだということを学ばなければならない。神の律法に従う力を人に与えるのは神の恵みである。これが人間に悪習慣の束縛から脱する力を与える。人間を正しい道に歩ませ、たえずその道にすすませることのできる唯一の力がこれなのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング\* 84, 85)

清められた心にとってはすべてのものが変わっているのである。……神の霊が魂のうちに新しい生命を生じさせて、思いと願いとをキリストのみ心に従わせるのである。そして、内なる人は神のかたちに変えられる。人々の罪をあがなう恵みの力は、欠陥の多い人間を、均齊のとれた実り豊かな者にすることができるということを、弱く、陥りがちな男女が世界に示すのである。(国と指導者上巻 200, 201)

## 悪の支配を断ち切る

「罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。」(ローマ 5:20)

イエスの賜物はいつも新鮮で新しい。……新しい賜物が与えられるたびに、それを受ける者には主の祝福を感謝し、よろこぶ能力が増し加わる。主は恵みに恵みを加えられる。恵みのたくわえがつきるといことがない。キリストのうちに住むならば、あなたがきょうゆたかな賜物を受けることは、あしたはもつとゆたかな賜物を受ける保証である。……

婚宴の席へのキリストの贈物は、一つの象徴であった。〔ヨハネ 2:1～11 引用〕。水は主の死にあうバプテスマをあらわし、ぶどう酒は世の罪のために流される主の血潮をあらわしていた。水がめを満たす水は人間の手で持ってこられたが、それにいのちを与える効力をさずけることができるのはキリストのみことばだけであった。……

キリストのみことばによって、ふるまいの席に十分な飲み物が備えられた。人の悪を消し去り、魂を新たにし、これを養う主の恵みは同じようにゆたかに用意されている。(各時代の希望上巻 172)

罪によって生じた状態は不自然であり、これから回復する力は超自然的なものでなければならず、そうでないものは価値がない。人の心から悪の手を断ち切ることができる力は一つしかなく、それはイエス・キリストの中にある神の力だけである。十字架におつきになったキリストの血潮のうちにしか、罪からきよめるものはなく、キリストの恵みだけがわたしたちの墮落した人間性をもつ傾向に抵抗し、これを服従させうるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 404)

サタンは、失われた人類を救うためにそのひとり子をお与えになるようにと神を導いたその愛を、人々が見ないようにしようと、決心した。なぜなら人々を悔い改めに導くのは神の慈しみだからである。ああ、どのようにすれば、神の深く尊い愛をうまく世の前に提示できるであろうか。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と叫ぶより他に、わたしたちが達成できる方法はない(ヨハネ第一 3:1)。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と、罪人に言おう(ヨハネ 1:29)。……

カルバリーの十字架を見なさい。それは天父の限りない愛、また量りしれないあわれみの永続的な誓いである。(セクレット・メッセージ 1巻 384, 385)

## 主を大いなるものとする

「あなたの救を愛する者は常に『主は大いなるかな』となえるように。」(詩篇 40:16)

キリストの証人として、われわれは、知っていること、自分が見、聞き、感じたことを語るのである。もし一步一步イエスに従ってきているならば、われわれは、イエスがわれわれをみちびかかれた道について何か要点にふれたことを語るができるのである。イエスの約束を試みて、その約束が真実であったことを語るができる。キリストの恵みについて知ったことをあかしすることができる。これこそ主が求めておられるあかしであって、このあかしが欠けているために、世の人々は滅びつつあるのである。(各時代の希望中巻 66)

神は、ご自分が天の永遠の住居に住むために準備をしておられるすべての家族が、その恵みの豊かな宝のゆえにご自分に栄光を帰すよう望んでおられる。家庭生活の中で、子供たちがすべての良きものを与え主に感謝するよう教育され、訓練されているなら、わたしたちは家族の中に天来の恵みの要素が現れているのを見るであろうに。家庭生活の中に快活さが見られ、そのような家庭から出てくる青年は、教室に、教会の中に、尊敬と崇敬の精神をもたらすであろうに。……

家中の者一人びとりの知覚力が真理の御言によって聖化されているがゆえに、この世のすべての祝福は喜んで受け入れられ、すべての霊的な祝福は尊さが倍増する。主イエスは、自分たちの良きものすべてが、慈悲深く愛情に満ちた保護者なる神から出たものであり、このお方をあらゆる快適さと慰めの偉大な源泉、また無尽蔵の恵みの源として認めて、このお方の恵み深い賜物を感謝する者に非常に近くおられる。(神のむすこ娘たち 122)

真のキリスト者は、何事においても神を、最初であり最後であり、そして最上のものである。どのような野心的動機も彼の神に対する愛を冷却させることはない。彼は着実に忍耐強く、彼の父なる神に栄光が帰せられるように努力するのである。われわれが忠実に神のみ名を高めているときに、われわれの衝動は神の統御のもとにあるのである。そして、われわれは霊的、知的能力を啓発することができるのである。

主イエスは天の父なる神のみ名を常に高められた。彼は弟子たちに「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように」と祈ることをお教えになった(マタイ 6:9)。そして、彼らは「栄えは、……あなたのもだからです」と認めることを忘れてはならなかった(同 6:13 新改訳)。(国と指導者上巻 43)

## 利己心を根こそぎにするために

「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気をつけなさい。」(ルカ 12:1)

パリサイ人の偽善は、利己主義の産物であった。自分自身の栄誉が彼らの人生の目的であった。……弟子たちでさえ、外面的にはイエスのためにいっさいを捨てていたが、心の中では自分自身のために大きなことを求めることをやめていなかった。……パン種が最後まで働くのを放っておくと腐敗が生じるように、利己主義の精神が心に宿ると、それは魂を墮落させ、滅ぼしてしまうのである。昔と同じように今日も、主イエスに従う者の中に、この陰険で欺瞞的な罪がどんなに広く見られることだろう。キリストへの奉仕やお互の間のまじわりが、自分を高めたいとのひそかな欲望のためにどんなにしばしばそこなわれることだろう。……「パリサイ人のパン種……に気をつけなさい」とのキリストの警告のみことばは、キリストご自身の弟子たちに語られているのである。……利己心と偽善とを追放できるのは神の力だけである。(各時代の希望中巻 173, 174)

しかしユダは、弟子たちに加わったとき、キリストの品性の美しさに気がつかなかったわけではなかった。彼は、魂を救い主にひきよせている神の力の感化力を感じた。……救い主はユダの心をお読みになり、ユダが神の恵みによって救われなければ不義の深みに沈んでしまうことをご存じだった。この男をご自分に結びつけることによって、イエスは、ご自身のわきあふれる無私の愛に日々ふれることのできる場所に彼を置かれた。もしユダが心をキリストに向かって開くなら、神の恵みは利己主義という悪鬼を追い出し、たとえユダでも神のみ国の臣民となるのであった。(各時代の希望上巻 379, 380)

キリストほど高い地位にある者はだれもないのに、主は、身をかがめて最もいやしいつとめをされた。……キリストご自身が謙遜の模範を示されたのである。主はこの大きな問題を人の責任にまかせておかれなかった。神と等しいおかたであるキリストご自身が、弟子たちに対してしもべとしてふるまわれたほど、主はこの問題を重視された。彼らが最高の地位を争っている間に、すべての人がひざまずき主、栄光の天使も仕えることを名譽としている主が、ご自分を主と呼んでいるこれらの人たちの足を、ひざまずいて洗われた。主はご自分を裏切る者の足を洗われた。……イエスの一生は奉仕の法則の下にあった。主はすべての人に仕え、すべての人に奉仕された。こうして主は、神の律法を生活し、ご自分の模範によって、われわれが神の律法にどのように従うべきかを示された。(各時代の希望下巻 125, 126)

## 悪習慣を断ち切るために

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント第二 5:17)

人はキリストの力によって、罪深い習慣の鎖を断ち切る。彼らは利己心を捨てる。不敬な者は敬虔になり、飲酒家は謹厳になり、放蕩者は純潔になる。サタンに似ていた人々が神のかたちに変わってくる。この変化はそれ自体が奇跡中の奇跡である。みことばによって起こる変化、それはみことばの最も深い奥義の一つである。われわれはそれを理解することができない。ただ、聖書に述べられているとおり、それが「あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」と信じることができるだけである。(コロサイ 1:27) ……

信者は自分の向上に妨げとなるものや、その狭い道から他の人の足をそらすものをすべて断ち切り、日常生活において慈悲、親切、謙遜、柔和、寛容、キリストの愛をあらわすのである。

もっと高く、もっと純潔で、もっと崇高な生活の力が、われわれに大いに必要である。われわれは世俗のことに心を用いすぎ、天の国について考えることがあまりにも少ない。

クリスチャンは、神が彼のために定められた理想に到達しようとする努力において、どんなことにも絶望してはならない。キリストの恵みと力によって、道徳的、霊的完全さがすべての者に約束されている。イエスは力のみなもと、いのちの泉である。(患難から栄光へ下巻 169～171)

神のみことばを学んで、その聖なる原則をわたしたちの生活にとり入れよう。日々自分の欠点を直しながら、柔和とけんそんな心をもって、神のみ前に歩もう。……。平安と休息は、自分の意志をキリストのみこころに服従させるときに与えられる。そのとき心の中はキリストの愛が支配し、行為のかくれた動機は救い主のとりこにされる。せっかちな、いらだちやすい気分は、キリストの恩恵という油によって、やわらげられ、静められる。……

新しい心をあたえられた者は、けんそんにそして感謝に満ちた信頼心をもってキリストの助けに寄り頼む。彼の生活の中には、義という実が現われる。彼はかつては自分自身を愛した。世俗的な快樂を楽しんだ。しかしいま彼の偶像は退けられ、神が最高位にあって統治しておられる。かつて愛した罪をこんどは憎むようになる。断固として聖潔の道を歩むようになる。(青年への使命 63, 64)

## サタンに対する憎しみを生じさせる

「また、悪魔に機会を与えてはいけない。」(エペソ 4:27)

人類が、キリストを通して、神の愛とあわれみの対象となっているために、人類に対するサタンの敵意が燃え上がっている。彼は、人類を贖おうとする神の計画を妨害しようと望み、神のみ手のわざを傷つけ汚すことによって、神のみ栄えを汚そうと望んでいる。彼は、天を悲しませ、地を苦悩と荒廃で満たそうと望んでいるのである。そして彼は、こうした害悪はみな、神が人間を創造したために起こったと指摘する。

人間のうちに、サタンに対する敵意を起こさせるのは、キリストが心の中に植え付けられる恵みである。この改変の恵みと更生の力がなければ、人間は引き続きサタンの捕虜であり、常に彼の命令に従うしもべであるしかない。しかし、心の中の新しい原則が、これまで平和であったところに争闘を起こすのである。キリストがお与えになる力によって、人間は、暴君であり、横領者であるサタンに抵抗する力を得る。だれでも、罪を愛するかわりに罪を憎み、これまで心の中を支配していた欲望に抵抗して、それに打ち勝つならば、それは、全く上からの原則が働いていることを示している。(各時代の争闘下巻 244, 245)

サタンはほえたけるししのように獲物を求めている。彼は無防備なすべての青年に策略をこころみる。キリストの内にもみ安全がある。サタンが首尾よく撃退されるのはこのお方の恵みを通してだけである。サタンは若者に、まだ十分時間があるので、彼らは今回は罪と不道徳にふけても、二度としないようにすることができるという。しかし一度の放縦は彼らの全人生を毒する。禁じられている領域で一度でも危険を冒して試みてはならない。この悪の危険な時代に、不道徳と墮落への誘惑がいたる所にあるとき、「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか」との若者の熱心な心からの叫びが天へ上るようにしよう。そして彼の耳が開き、「み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません」との答えの中に与えられている教えに、彼の心が従う気持ちになることを祈る(詩篇 119:9)。この汚れた時代にあつて青年にとって唯一の安全は神に信頼することである。彼らは神の助けなくして人間の情欲や食欲を支配することはできない。キリストの内にもこそ、必要とされている助けがある。……あなたは使徒と共に「しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある」と言うことができる。くりかえし言うが、「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである」(コリント第一 9:27)。(教会への証 2 巻 409)

## 不安や疑惑を一掃するために

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」(マタイ 14:31)

キリストは人間が天から力を受けてはじめて、けがれの無い生涯が送られるのだということを示すために、この世においてになったのである。そして不屈の忍耐と同情をもって人々を助け、彼らの必要を満たされた。彼はやさしい恵みの手をもって人の心から不安や疑惑を一掃し、敵意を愛に、不信を信頼にお変えになった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 8)

自己を観察し、自己の感情にふけることは賢明ではない。そうするとき、敵はわたしたちの信仰を弱め、勇気をくじくような困難や誘惑をあらわしてくる。自分の感情にふけり、気分を負けることは疑惑の念をそだて、困惑の中に自分をまき込むようなものである。わたしたちは目を自分から離し、イエスを見なければならぬ。

誘惑が襲い、心労、困惑、暗黒が魂を取り囲むように思われるときは、最後に光を見た場所を見なさい。キリストの愛と保護の下に安んじ、心の中で罪が勝利しようと戦い、苛責の念が魂を苦しめ、良心を悩ますとき、また不信仰が心を暗くするとき、キリストの恵みは罪を征服し、暗黒を追い払うに十分な力のあることを覚えなさい。(ミストリー・オブ・ヒーリング 227)

このお方は、あなたが忍耐強くあるために恵みを与え、信頼に足るものとするために恵みを与え、不安に打ち勝つために恵みを与え、あなたの心をご自身の芳しい御霊で温めて下さり、弱さのうちにあるあなたの魂を再び生かして下さい。……そうであれば、あなたの魂は神に信頼していなさい。あなたの重荷をこのお方の許へおろしなさい。神を愛する魂は疑いの霧の上へのぼり、輝かしい広く深い生きた経験を、柔和に、キリストのようになる。彼の魂は神に委ねられ、キリストと共に神のうちに隠される。彼は自分の救い主が無視、悪口、軽蔑に苦しまれたので、これらのテストすべてに耐えることができる。彼は困難が自分に押し寄せても、いらだち、失望しない。なぜなら、イエスは失敗も失望もなさらなかったからである。すべての真のクリスチャンは、自分の良い働きの力や功績ではなく、信仰によって自分に着せられたキリストの義のうちに強くなる。心が柔和でへりくだり、天の君が人々のただ中を歩まれたときのように純潔で汚れのない者になることは大いなることである。(SDA バイブル・コメント [E.G. 柯什・コメント] 7巻 907)

## 教会を一つにするために

「さまざまな違った教によって、迷わされてはならない。……恵みによって、心を強くするがよい。」(ヘブル 13:9)

賢明な主は、すべての信徒が守らなければならない、密接なつながりという手段によって、クリスチャン同志、教会同志が一つに結ばれるよう計画なさった。こうして人間の器は神と協力できるのである。すべての働きが聖霊に従属し、すべての信徒が組織的に、よい指揮のもとに一致し、神の恵みのよるこぼしいおとずれを世に伝えるようになるのである。(患難から栄光へ上巻 176)

神は人々を個々に扱い、一人びとりに働きをお与えになる。すべての者が神から教えられるべきである。キリストの恵みによって、一人びとりの魂が、御父と御子との生きたつながりを維持しつつ、自分自身の義の達成に努めなければならない。……

主が個人個人を導かれるのは真実である一方で、このお方は、ある者はこれを信じ、他の者はあれを信じる、そこかしこにいる幾つかに分かれた個人個人ではなく、一つの民を導いておられることもまた真実である。神の御使たちは自分たちに託された働きをしている。第三天使は民を導き、精錬しているのであるから、彼らは第三天使と一致して動かなければならない。……

ある者は、わたしたちが時の終わりに近づくにつれ、神の子はみなどの宗教団体からも独立して行動するようになるとの考えをおし進めてきた。しかし、わたしは、この働きの中において、すべての人が独立しているなどというようなことはない、主に教えられてきた。……主のみ働きが健全に堅固に前進することができるために、神の民は一致しなければならない。(牧師への証 488, 489)

各教会員は、神のみ事業の利益を厳密に守る聖なる義務の下にいと感じなければならない。……イエスは知恵、恵み、力が得られる方法を一人びとりに開いておられる。このお方は万事におけるわたしたちの模範であられるので、何ものにも人生における主要な目標から思いがそらされてはならない。すなわち、心を溶かし、征服なさるキリストを魂のうちにいただくことである。これが実現するとき、教会員一人びとりに、また真理を公言する一人びとりに、品性において、言葉において、行動において、キリストのようになる。(教会への証 5 巻 278)

## わたしたちが勝利者となるために

「兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。」(黙示録 12:11)

キリストは人類家族の一人びとりが誘惑に抵抗することができるようにしてくださった。信心深く生きるものはすべてキリストが打ち勝たれたように打ち勝つことができる。(医事伝道 264)

神の恵みを自身のものとするためには、自分の立場を尽さなければならない。神はわたしたちに代って志をたてたり、わざを行ったりしようとは仰せにならない。神の恵みは、わたしたちが志をたて、わざを行うようにわたしたちの内に働くために与えられるのであって、努力の代用として与えられるのではない。わたしたちの魂が目ざめて協力しなければならない。……りっぱな知的素質と高い道徳的品性とは偶然の結果ではない。神は機会をお与えになる。その機会をどう用いるかによって成功がきまるのである。摂理のとびらが開かれた時に、すぐこれを見わけて熱心にそこにはいつて行かなければならない。ダニエルのように、勝利者となるための恵みと、働きをなすための力と能率を求めて神により頼むとき、偉大な人物となりうる人がたくさんいる。(青年への使命 142, 143)

天との生きたつながりを維持し、ダニエルがしたように、一日三回、食欲と情欲に抵抗するための恵みを求める必要がある。神聖な力の援助なくして食欲、情欲と格闘しても成功しないが、キリストをあなたの磐とするなら、あなたの魂は「わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある」者となる(ローマ 8:37)。使徒パウロは「自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない」と言った(コリント第一 9:27)。

だれも自分が神の助けなしに打ち勝つことができると考えてはならない。あなたは、自分のうちに発達する内なる命の活力、強さ、力をもたなければならない。そうすれば、あなたは信心の実を結び、不道徳に対する激しい嫌悪感を持つようになる。あなたは世俗なこと、安っぽい会話、またすべて好色的なことを遠ざけるために、また魂の高潔さ、純潔でしみのない品性を目指すために奮闘する必要がある。あなたの名はいかなる不正直なものや不義なものとも正当にかかわりをもつことはできないほど、かつ、すべての善良にして純潔な人々から尊重されるほど、純潔なものとして保つことができる。また、それは聖天使たちの間で朽ちないものとされるために、小羊の命の書にしるされることができる。(医事伝道 144)

## 気高い品性を築くために

「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。」(ヨハネ 1:16)

わたしたちが目の前に示された模範に習って品性を築くよう、神は期待しておいでになる。わたしたちはちょうどレンガを一つずつ積み上げるように、恵みに恵みを加え、自分の弱点を見いだしたなら、与えられた指示に従ってそれを改めていくようにしなくてはならない。建物の壁にひびが入るのは、建物のどこかが悪いからである。品性の形成においても、ひびがはいることがよくある。こういった欠陥が直されない限り、試練の嵐が打ち付けると、その家は倒れてしまうであろう。

神はご自分がよしとお認めになることのできる品性をわたしたちが築くことができるよう、わたしたちに力と理性と時を与えておられる。神はご自分の子供たち一人ひとり清く気高い行いをすることによって立派な品性を築き、神と人から尊ばれるような、調和の取れた建物、美しい宮となるよう望んでおられる。(家庭の教育 162,163)

とうとい円満な品性というものは、親ゆずりでもなければ、また偶然に得られるものでもない。りっぱな品性は、キリストの功績と恵みを通して、個人の努力によって得られるものである。神が、才能すなわち思いの能力をお与えになり、わたしたちが品性を形成するのである。それは自我とのきびしい困難な戦いによって形づくられる。戦いに戦いを重ねて、先天的な性格を克服しなければならない。自分をきびしく批判して、好ましくない傾向は一つでも改めないでおいてはならない。(青年への使命 91, 92)

キリストの恵みによって生きる生活を通して、品性が形成される。魂には本来の美しさが回復しはじめる。キリストの品性の特徴がわけ与えられ、神のみかたちが光を放ち始める。神と共に歩み、働く男女の顔には、天の平安があらわれる。彼らは天の雰囲気がかこまれる。このような魂には、神のみ国がはじまったのである。彼らには、キリストのよきこび、すなわち人類の祝福となっているというよきこびがある。彼らには、主のご用に受け入れられるという光栄がある。彼らは、主のみ名によって、主の働きをするように信任されている。(各時代の希望中巻 22)

神がその領域で純潔であられるように、人は自分の領域で純潔であるべきである。そしてもしキリストが栄光の望みとして内に形づくられるなら、彼は純潔になる。なぜなら彼はキリストの生涯をまね、そのご品性を反映するからである。(福音宣伝者 366)

## 強め、励ますために

「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。」(ピリピ 4:13)

主はまじめでへりくだった働き人を強くし、励ますために、最も尊いご自分の恵みを発揮する用意ができておられる。(教会への証 6 巻 413)

キリストの弟子たちは自分たちの無能力を深く自覚し、謙遜に、祈りながら、彼らの弱さをキリストの強さに、彼らの無知をキリストの知恵に、彼らの無価値さをキリストの義に、彼らの貧しさをキリストの尽きることのない富に結びつけた。こうして強められ、必要な能力を身につけて、彼らは主への奉仕に臆することなく前進した。(患難から栄光へ上巻 54)

人が持っているものは全て神がお与えになったものであり、神の栄光のために自分の能力を向上させる者は、善を行うための器である。しかし、わたしたちはこの世の食物をとることなしに体力を得ることができないのとまったく同様に、絶え間ない祈りと宗教上の義務を行うことなしに、宗教生活を送ることはできない。わたしたちは日々神の食卓に座らなければならない。もし養われたいのであれば、生けるぶどうの木から力を受けなければならない。……

ただ神の栄光にのみ目を留めて行動するようにと、わたしはあなたに懇願する。あなたが頼るのはこのお方の力であり、その恵みがあなたの力強さとなるようにしよう。聖書の研究と熱心な祈りによってあなたの義務のはっきりとした概念を得ようと努め、それからそれを忠実に実践しなさい。あなたが小さな事柄における忠実さを培うのはきわめて重要である。そうすることによって、あなたはもっと大きな責任における誠実さを習慣として身につけることになる。……人生のできごとの一つ一つは、善か悪のために大きな意味をもつ。思いは、日々のテストによって訓練される必要があるが、それはどのように困難な立場にも耐えるための力を得ることができるためである。試練と危機の日々の中で、あなたはいかなる反対の影響力にも左右されることなく、正しいことのために固く立つよう、防備を強化する必要がある。(教会への証 4 巻 560, 561)

イエスはわたしたちがご自分を信頼するときのみ、わたしたちの重荷を負うことに同意される。「すべて重荷を負うて疲れている者はわたしのもとへ来なさい。あなたの荷をわたしに渡しなさい。人間の代理人が行うのが不可能な働きをするために、わたしを信頼しなさい」と、イエスは言っておられる。このお方を信頼しよう。心配は盲目であり、将来をはっきりと見ることができない。しかしイエスは初めから終わりをご覧になり、あらゆる困難の中で救済をもたらすために用意されたご自身の方法をもっておられる。キリストの内に宿ることにより、わたしたちを強くするお方によってわたしたちは何事でもすることができる。(教会への証 7 巻 297,298)

## 試練の時のために

「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。」(ヤコブ 1:12)

闇の権力が魂の周囲をかこみ、わたしたちの視野からイエスを締め出して、ときにわたしたちは、雲が去るまで、悲しみと驚きの中で待つしかないことがある。このような時は、ときに恐ろしいものである。希望がくじかれ、絶望がわたしたちをとらえる。このような恐ろしい時に、わたしたちは信頼すること、ただ贖罪の功績だけにより頼むこと、またまったく希望のない無償なままで自らを、十字架につけられよみがえられた救い主の功績に委ねることを学ばなければならない。わたしたちがそのようにするかぎり、決して滅びることはない。決して!光がわたしたちの行く道を照らすとき、恵みの力によって強くなることは、たいしたことではない。しかし、雲がわたしたちを包み、すべてが闇のときに、忍耐強く待つことは、わたしたちの意志をすっかり神の意志にのみ込ませる信仰と屈服を要求する。わたしたちは耐え忍ぶための忍耐と勝利するための恵みを嘆願すべきときに、あまりにもすぐに失望し、試練が自分から取り除かれることを熱心に叫び求める。(教会への証 1巻 309, 310)

心と魂と思いをもちて神に帰る人々は、このお方のうちに平安な安全を見出す。……このお方は、まさにわたしたちが必要としているもの、わたしたちが耐えられることをご存じであり、ご自分がわたしたちにもたらされる一つ一つの試練とテストに耐えるための恵みを与えて下さる。わたしの絶えざる祈りは、ますます大いに神に近づくことである。(神のむすこ娘たち 19)

神は大いなる愛をもって、わたしたちのうちに聖霊による尊い徳を育成しようとしておられる。神がわたしたちに障害や迫害や困難のくるのをお許しになるのは、のろいとしてでなく、わたしたちの生涯の最高の祝福としてである。抵抗したすべての誘惑、勇敢に耐えたすべての試練は、わたしたちに新しい経験を与え、わたしたちの品性建設の働きを押し進める。神のみ力によって試みに抵抗した人は、世界と全天にキリストの恵みの力をあらわすのである。(祝福の山 147)

神の指導に従い、神に仕えるために一生をささげる者が神が備えられない境遇に陥ることは決してない。もしわたしたちが神のみ言葉を行ってれば、境遇がどうであっても、みちびき手である案内者があり、どんな困惑に遭遇しても確かな相談相手があり、どんな悲しみ、死別、孤独の中にあってもわたしたちには同情深い友人がいるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 226)

## 家庭を堅くたためるために

「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ」(箴言 24:3)

アダムの助け手としてエバを与えられたお方が結婚の祝いの席上で最初の奇跡を行われた。……こうしてキリストは婚姻を是認し、御自ら制定された制度として認められた。キリストは男女が清い結婚によって結ばれ、天の家族の一員として認められるような、りっぱな家族を育てあげるようにお定めになった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 329)

神の良き賜物の、あらゆる他のものと同様に……、結婚は罪によってゆがめられている。しかしその純潔と美しさを回復することが福音の目的である。……

キリストの恵み、これだけがこの制度を神がご計画されたとおりのもの、すなわち人類の祝福と道徳的向上のものとする事ができる。そしてこのようにして、地上の家族は、その一致と平和と愛のうちに、天の家族をあらわすことができる。社会の状況は、この聖なる関係の天の理想に対して、悲しむべき状態を物語っている。それでもなお、交わりと喜びを希望していたところに苦々しさと失望を見出した者のためにさえ、キリストの福音は慰めを提供する。このお方の御霊が与えることのできる忍耐と優しさは、苦々しい運命を和らげる。キリストが住まわれる心は、このお方の愛に満ちみちて、非常に満足するので、それ自体に同情や注目を引くことを切望して消耗することがない。そして、神への魂の屈服を通して、このお方の知恵は人間の知恵が行えないことを、なし遂げることができる。その恵みの啓示によって、かつては無関心もしくは疎遠であった心は一致することができる。……

男女はもし彼らがキリストを自分たちの助け手とするなら、彼らのための神の理想に到達することができる。人間の知恵が行うことのできないことを、このお方の恵みは、愛に満ちた信頼で自分自身を捧げる者のために成し遂げられる。そのみ摂理は天に由来する絆で心を結びつける。愛は単にやわらかい喜ばせる言葉の交換ではない。天の織機は、地上の織機で織ることができるよりも、もっと細く繊細でありながら、もっとしっかりしている縦糸と横糸で織る。結果は薄い織物ではなく、着用、テスト、試練に耐える織地である。心は心に永続する愛の黄金の絆で結びつけられる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1908年12月10日)

## 重荷をになう人を支えるために

「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。」(詩篇 55:22)

最も弱い、最も目だたない者でも日常くり返している苦勞のうちに神と共に働く者となり、神の臨在とささえの力による慰めを受けることができる。たえず心配し、不必要な心勞によって自己を疲勞させてはならない。一日一日、こつこつと働き、神の摂理に示された仕事を忠実に果すようになさい。そうすれば、神は確実に守ってくださる。……

神の保護はいつさいの被造物の上に及ぶものである。神はすべてのものを区別なく愛されるが、生涯に最も重い重荷を負わされている人を一番優しくおあわれみになる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 175, 176)

どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな神の前におきなさい。なにをもつてきても重すぎたり、神を疲れさせたりすることはない。頭の髪の毛でさえ数えられる神は、子らの必要に無関心ではおられない。……心をわずらわすことはなんでも神に申し上げなさい。神は諸世界をささえ、全宇宙のすべてを支配しておられるのであるから、神にとって大き過ぎてささえきれぬというものはない。わたしたちの平和にかかわることであつたならばどんなことでも、小さすぎてお気づきにならないということはない。わたしたちのどんなに暗い経験も、暗すぎてお読みになれないということはない。またどんなに難問題でも、神には解明できないということはない。神の子らのいと小さき者にふりかかる災も、心を悩ます不安も喜びの声も、くちびるからほとぼる真剣な祈りも、天の父はことごとく注意し、深い関心を払われる。「主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」(詩篇 147:3)。神と各々の魂との関係は、あたかも神がただそのひとりのために愛するみ子をお与えになったかのように、はっきりとした完全なものである。(キリストへの道 137,138)

主は、一人として、耐えられないような重荷をおしつけるようなことはなさらない。このお方は、ご自分との共勞者の心に重荷をおくことを許す前に、どの重さをも見積られる。わたしたちの愛に満ちた天父は「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる」と仰せになる(詩篇 55:22)。すべて重荷を負う人は、主が大きくても小さくてもすべての重荷を負ってくださることを信じなさい。(教会への証 7卷 297)

## 日ごとの必要のために

「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあつて満たして下さるであらう。」(ピリピ 4:19)

イエス・キリストと生きたつながりのある者にすべての祝福が与えられる。イエスはご自分の許に彼らを召されるが、それはご自分の恵みとご臨在をもって単に数時間わたしたちを活気づけたあとに、わたしたちをご自分の光から外に送り出して、ご自分から離れて悲しみと憂鬱のうちに歩ませるためではない。否、そうではない。このお方はわたしたちがこのお方の内に住み、ご自分がわたしたちの内に住まなければならないと仰せになる。……絶えずこのお方を信頼し、その愛を疑ってはならない。イエスはわたしたちの弱さとわたしたちに必要なものをすべて知っておられる。このお方は、わたしたちの日のために十分な恵みをお与えになる。(神のむすこ娘たち 191)

恵みを絶えず新たに受けている者たちだけが、日常の必要に応じて、また力を用いる彼らの能力に応じて、力を受けるであらう。霊的な力が特別に賦与されて、やがて救霊のために驚異的な装備を受ける時が来るのを待ち望むのではなく、彼らは、神の御用にふさわしい器としていただくために、日ごとに神に従っている。彼らは手の届く範囲にある奉仕の機会を毎日利用している。家庭の地味な仕事をしていても、あるいは、有用な社会の職場にいても、どこでも彼らは主のためにあかしを立てている。

キリストでさえこの地上でのご生涯に、毎日必要な恵みを神に求められたということは、献身的な働き人にとって、すばらしい慰めである。神とのこの交わりから、イエスは力を受けて、人々を力づけ、祝福するために出て行かれた。……

キリストの模範に従う働き人はみな、地上の収穫物を実らせるために神が教会に約束された力を受け、これを用いるために備えをする。朝ごとに福音の使者が主の前にひざまずいて、献身の誓いを新たにするとき、神は信仰を覚醒させ、きよめる力をもった聖霊の臨在をお与えになる。日々の勤めに出かけるとき、彼らは見えない聖霊の力によって「神と共に働く者たち」(コリント第一 3:9)となることができるという保証を受けるのである。(患難から栄光へ上巻 52, 53)

## 最も罪深い者を引き上げるために

「しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。」(ヤコブ 4:6)

マリヤは非常に悪い罪人としてみられていたが、キリストは、彼女をそうした生活に追いやった事情をご存じだった。主はマリヤの魂から望みのともし火をすっかり消してしまうこともおできになったのであるが、そうはなさらなかった。マリヤを絶望と滅亡から引きあげたのはイエスであった。彼女の心と思いを支配していた悪魔を責められるイエスのことばを、彼女は七回聞いた。彼女は、自分のために天父に祈ってくださるイエスの強い叫びを聞いた。彼女は、イエスのけがれない純潔さのうちにあって罪がどんなに憎むべきものであるかを知り、キリストの力によって勝利したのだった。

マリヤの問題が人間の目には絶望的に見えた時にも、キリストは彼女のうちに善への可能性をごらんになった。キリストは彼女の性格のよい面をごらんになった。あがないの計画によって、人類は大きな可能性をさづけられていたので、こうした可能性がマリヤのうちに実現されるのであった。キリストの恵みを通して、彼女は、神の性質にあずかる者となった。墮落し、心が悪霊の住み家となっていた者が、まじわりと奉仕を通して救い主に近づけられた。イエスの足下にすわって、イエスから学んだのはマリヤであった。イエスの頭に貴重な香油をそそぎ、イエスの足を涙で洗ったのはマリヤであった。マリヤは十字架のそばに立ち、イエスについて墓に行った。マリヤは、イエスの復活ののち一番さきに墓にいた。よみがえられた救い主のことを一番さきに言いひろめたのはマリヤであった。

イエスは、ひとりびとりの魂の事情をご存じである。自分は罪深い者だ、とても罪深い者だとあなたは言うだろう。あるいはそうかも知れない。しかしあなたが悪ければ悪いほど、イエスが必要なのである。主は泣いて悔い改める者を決してしりぞけられない。……主は、ふるえている魂に勇気を出しなさいと命じられる。主はゆるしと回復とを求めてみもとに来るすべての者を心よくゆるしてくださる。……

イエスを避け所として求める魂を、主は告発とことばの争いから高めてくださる。だれも、またどんな悪天使も、このような魂を訴えることはできない。キリストはそうした魂をご自身の神また人としての性質に結びつけられる。(各時代の希望中巻 395～397)

キリストの特質をあらわそうと、着実に辛抱強く奮闘する者に、天使たちはこのお方の品性と働き、その力と恵みと愛について、拡大した見解を与えることを命じられている。このようにして彼らはこのお方の性質にあずかるものとなる。(両親、教師そして生徒への勧告 491)

## 魂に命を与えるために

「しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。(ヨハネ 4:14)

この世の泉でかわきをいやそうとする者は、飲んでもすぐにまたかわくだけである。どこでも人々は満足していない。彼らは魂の必要を満たすものを求めている。その足りないところを満たすことのできるおかたはひとりしかない。世の必要、「万国の願うところのもの」はキリストである。キリストだけがお与えになれる神の恵みこそ、魂をきよめ、清新にし、活気づける生ける水である。

イエスは、一杯のいのちの水を受けるだけで十分であるという意味のことは言われなかった。キリストの愛を味わう者はたえずもつと求める。だがそれ以外のものは何も求めない。彼には世の富も栄えも楽しみも、魅力がない。彼の心は、『もつとあなたを』とたえず叫びつづける。魂に必要なお示しになるおかたが、その飢えとかわきを満たそうと待っておられる。人間的手段や人間にたよるときにみな失敗する。水槽はからになり、水たまりはかわく。だがあがない主は尽きない泉である。飲んでも飲んでも新しい水がいつでもわいている。キリストを内住させている人は、自分のうちに祝福の泉を持つ。……この泉から、彼は自分のすべての必要を満たすのに十分な力と恵みとをくむことができる。(各時代の希望上巻 221)

生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それはわきあがってすべての人を元気づけ、いまにも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。(同上上巻 234)

キリストが言及された水はその御言の中の恵みの啓示であった。……その御言の中にあるキリストの恵み深いご臨在は、絶えず魂に語りかけ、渇きを癒す生きた水の井戸としてこのお方をあらわしている。生きて内住して下さる救い主を持つことが、わたしたちの特権である。このお方はわたしたちのうちに植えつけられた霊的力の源であり、このお方の感化力は言葉や行動にあふれ出て、わたしたちの感化力の領域内にいるすべての者を活気づけ、彼らのうちに力強さと純潔を、また聖潔と平安を、そして悲しみをもたらさない喜びを求める願望と大志を生じさせる。これは救い主が内住される結果である。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初作・コメント] 5 巻 1134)

## わたしたちを聖なるものとするために

「あなたがたの神、主なるわたしは、聖であるから、あなたがたも聖でなければならぬ。」(レビ記 19:2)

聖潔は忘我の境地ではない。それは意志を全く神に従わすことである。それは神のみ口から出る一つ一つのことばで生きることであり、天の父なる神のみこころをなすことである。光のうちにいるときと同様に、試練のときにも暗黒のときにも神により頼むことである。また、目で見えて歩くのではなく、信仰によって歩むことである。それは少しも疑わずに確信をもって神に頼み、神の愛に安らぐことである。(患難から栄光へ上巻 47)

わたしたちの心は悪く、わたしたちはそれらを変えることはできない。……教育、教養、意志の訓練、人間の努力などいづれも、それぞれ大切な役割を持つてはいるが、心を新たにする能力は全くない。もちろん、わたしたちの行動にただ外面的な正しさは与えるかも知れないが、心を変えることもできなければ、生活の源泉を清めることもできない。天よりの新しい生命がその人の内部に働かなければ、人は罪より清められることはできない。この力はキリストである。キリストの恵みのみが人の力なき魂を生きかえらせ、これを神と清きに導くことができる。(キリストへの道 15)

だれも相続権として、あるいは他の人間からの贈り物として神聖を受けることはない。救い主を受け入れる者が神の子となるのである。彼らは再生し、義と真の聖潔のうちに再び新しくされた、このお方の霊的な子供である。彼らの思いは変えられている。彼らは永遠の現実をもっとはっきりとした視力で見つめる。彼らは神の家族に養子とされ、このお方の様に一致し、御霊によって栄光から栄光へと変えられる。自己への愛を最も大事にする者から神とキリストへの愛を最も大事にする者になる。……キリストを個人的な救い主として受け入れ、自己否定のその模範に従うこと、これが聖潔の秘訣である。(SDA バイブル・コメント [E.G. 柯卜・コメント] 6 巻 1117)

過去のことを忘れて、天への道を前進しよう。活用すればもっと神への奉仕に役だつ者となれる機会をのがさないようにしよう。そのときわたしたちの生活には、黄金の糸のように聖潔が織りこまれる。また天使たちはわたしたちの献身をみて、「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも少なくする。(英訳・尊くする)」との神の約束をくりかえす(イザヤ書 13:12)。弱い、欠点の多い人間がイエスに献身し、キリストのような生活を送るとき、全天はよろこぶ。(青年への使命 101)

## クリスチャンを飾るために

「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえにきわめて尊いものである。」(ペテロ第一 3:3, 4)

目に留まるすべてのものを心引かれるよう美しく創造された神は、美を愛するお方である。このお方はあなたにご自分が真の美をどのように評価するかを示される。柔和でしとやかな霊という飾りはその御目にきわめて尊いものである。(教会への証 3 巻 376)

キリストの美しさに比べれば、金や真珠や高価な衣装はなんと価値のないものであろう。自然の美は均整のとれた美しさから成っている。あるいは互いに各部が調和した釣合の中にある。しかし、霊的な美しさは、イエスとわたしたちの心が調和していること、またはわたしたちの心がイエスに似ているということにある。それがその心の持ち主を精金やオフルのこがねよりも尊くする。キリストの恵みは実に何物にも代え難く尊い飾りである。それはその持ち主を高め、気高くし、栄光の輝きを他の人々に反映する。そしてその人々を光と祝福の源である方にひきつける。(家庭の教育 456, 457)

どの面においてもわたしたちの外見は、きちんとした慎み深い清潔さを特徴づけていなければならない。しかし神の御言は、わたしたちが世俗の人のような装いになるために、単なる流行のために衣服を変えることを承認してはいない。クリスチャンは値段の張る衣装や高価な飾りで身を飾るべきではない。……

キリストの恵みを求めているすべての者は、神の靈感を受けた教訓の尊い言葉に注意を払う。服装の様式すら福音の真理を表現する。(教会への証 6 巻 96)

美を愛し、それを望むのは正しいことである。しかし神は、われわれが、まず最高の美、すなわち朽ちることのない美を、愛し求めるよう望んでおられる。どんな外面の飾りも、価値や美しさにおいて、「柔和で、しとやかな霊」、この世のすべての聖なる者たちが着る「純白で、汚れのない麻布の衣」と比べることのできるものは何もない(黙示録 19:14)。この衣装は彼らを、この世においては美しく、愛される者とし、きたるべき世では、彼らが神の宮殿に入るためのしるしとなる。(患難から栄光下巻 223)

## 慰めをもたらすために

「神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。」(コリント第二1:4)

主は悲しむ者に特別なめぐみをもっておられる。その力は心を溶かし、魂を捕えるのである。主の愛は、痛み傷ついた魂に通路を開き、悲しむ者をいやす香油となる。(祝福の山16)

最大の悲しみに耐えている人々が、しばしば他の人々に最大の慰めをもたらす人々であり、自分たちの行くところどこへでも日光を携えていく。そのような人々は自分の苦悩によって懲らしめをうけ、和らげられている。彼らは困難が自分たちに襲いかかるとき、神への信頼を失うことなく、かえって守ってくださる神の愛にもっと近づくがりつく。そのような人々は、神の、すなわち闇と同様に光を作られ、わたしたちの益のために懲らしめられるお方の、優しい保護の証拠である。キリストは世の光であり、このお方のうちに闇はない。尊い光!悲しみと不満に別れを命じなさい。常に主にあつて喜びなさい。(天国で273)

あなた自身が神に慰められるのと同じ慰めをもって、あなたが慰めることができるように、キリストから恵みを受けるのはあなたの特権である。……一人びとりが隣の人を助けるようにしよう。このようにしてあなたはこの地上で天国を持つことができ、神のみ使いたちは、あなたを通して正しい印象を与えるよう働く。……できるところではどこでも、助けるよう努めなさい。神の恵みがあなたの上に豊かにとどまることのできるように最善の気質を培いなさい。

若者も年配者も神を、癒すお方、同情深く、自分たちの必要を理解し、決して間違いを犯すことのないお方として見るよう学ぶことができる。(神のむすこ娘たち268)

だれか他の人の心を慰め、誘惑や恐らくは苦難と戦っている誰かに親切な励ます言葉で祝福する時間を見出しなさい。このように、重荷を負ってくださるお方を指し示しつつ、他の人を元気づける希望に満ちた言葉で祝福することで、あなたは思いかけず自分自身が平安、幸福、慰めを見出す。(わたしたちの高い召し64)

献身したクリスチャンの生活は、常に光と慰安と平安を放っている。それは、純潔、気転、単純、有用性などの特性を持っている。それは、感化力を清める無我の愛に支配されている。それは、キリストに満ち満ちていてその人が行くところは、どこにでも、光の足跡を残すのである。(人類のあけぼの下巻350～351)

## わたしたちの土台を確かにする

「それゆえ、主なる神はこう言われる、『見よ、わたしはシオンに一つの石をすえて基とした。これは試みを経た石、堅くすえた尊い隅の石である。』」（イザヤ 28:16）

聖書の中で、神殿建設の姿は、しばしば教会の建設の例として用いられている。……ペテロはこの宮の建設について「主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって……」と書いている（ペテロ第一 2:4,5）。……

使徒たちは確かな土台、すなわちとこしえの岩の上に築いた。彼らはこの土台に、世界から切り出された石を運んできた。建設者たちの働きに障害がないわけではなかった。キリストの敵たちの反対により、彼らの働きは非常に困難になった。彼らはにせの土台の上に築こうとしている者たちの偏狭、偏見、憎悪と闘わなければならなかった。……しかし忠実な人々は、投獄され、拷問にかけられ、死刑にされても働きを進展させた。建物は次第に美しくなり均衡がとれてきた。……

使徒の時代以来、各時代にわたって神の宮の建設はやんだことがない。幾世紀にわたる過去を振り返ってみるとき、われわれはそこに、神の宮を作り上げている生きた石が、誤謬と迷信と暗黒をつらぬいて光り輝いているのを見る。これらの尊い宝石は、永遠にわたって、ますます光彩を増して輝く。……

だが、建築はまだ完成していない。今日生存するわれわれにも、なすべきわざ、果たすべき役割がある。火の試練に耐えられるような土台の材料—金、銀、宝石など……いのちのこばを忠実に伝え、人々を聖潔と平安の道に導くキリストは、耐久力のある材料を土台に加えているのであって、神の国において賢明な建築者として誉れを受けるであろう。（患難から栄光へ下巻 303～307）

神の力がわたしたちの努力と結びつき、わたしたちが信仰の手をもって神にすがりつくとき、キリストはわたしたちにご自分の知恵と義を与えられる。このようにその恵みによって、わたしたちは確かな土台の上に築くことが可能になる。（伝道 596）

## 保存する力

「あなたがたは、地の塩である。」(マタイ 5:13)

これらのキリストのみ言葉によって、わたしたちは何が人間の感化力の価値を構成しているかについて、いくぶんか見解を得る。それは、キリストの感化力と共に働くこと、すなわち、キリストが掲げるところで掲げ、正しい原則を与え、世の墮落の進展を抑えることである。それは、キリストだけが与えることのおおきくなる恵みを放散することである。それは、熱心な信仰と愛の結びつきよい模範の力によって、他の人々の生活と品性を高め、和らげることである。神の民は世において改革し、保存する力を働かせるべきである。彼らは破壊し、墮落させる悪の感化力に逆らう働きをすべきである。……

世における神の民の働きは、悪を抑制し、人類を高め、純潔にし、気高くすることである。親切、愛、慈悲心の原則は、社会全体に蔓延し、教会を墮落させている利己心の繊維をすべて、根こそぎ引き抜くべきである。……もし男女が真理と愛の天来の感化力に心を開くなら、これらの原則は砂漠にある川のように、再び流れ出し、すべてのものを活気づけて、今は不毛と欠乏に見えるところに新鮮さが現れるようにする。主の道を守る人々の感化力は、永遠にまで及ぶ。彼らは行くところどこへでも、永続的な、活気づけ、啓発する力として天来の平安の快活さを、たずさえ行く。……

繰り返し言うが、隠されていない感化力があるべきである。キリストはそのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」と言われる。……

イエス・キリストを受け入れる人々から輝く光は、自ら生じたのではない。それはすべて世の光であり命であるお方から出たものである。……キリストは信じるすべての者の光、命、聖潔、聖化であり、その光はすべてのよいわざを受け入れられ、与えられるべきである。その恵みはまた地の塩として多くのさまざまな方法で役目を果している。この塩は、家庭でも地域社会でもそれが見出されるころでは、善なるものをことごとく保ち、邪悪なものをことごとく撲滅する保存力となる。真の宗教は世の光、地の塩である。……

恵みと知識の泉は絶えず流れている。それは尽きることがない。わたしたちが供給されるのは、この豊かな満ち満ちた泉からである。(ビュー・アズ・ワルド 1899年8月22日)

## 照らすための光

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。」  
(イザヤ 60:1)

社会的な関係を通して、キリスト教は世の人々と接触するようになる。天来の光を受けた者はだれでもみな、いのちの光であられるキリストを知らない人々の道を照すのである。……社会的な能力は、キリストの恵みにきよめられて、魂を救い主にみちびくのに活用されなければならない。われわれは自分自身の利害問題に利己的に没頭しているのではなく、われわれの祝福と特権とを他人にわけ与えようと願っているのだということを、世の人々に見せよう。われわれの宗教はわれわれを非情にしたり苛酷(かこく)にしたりしないということを世の人々にわからせよう。キリストをみいだしたと言っている者はみな、キリストが人々を益するために働かれたように、奉仕しよう。

われわれは、クリスチャンは暗い不幸な人たちだというまがった印象を世の人々に与えるべきではない。もしわれわれの目がイエスにしっかりそそがれているならば、われわれはあわれみ深い救い主を見、そのみ顔の光をとらえるのである。神のみたまに支配されているところにはどこでも平安が宿る。神に対する落ち着いた、聖なる信頼があるので、そこにはまたよろこびがある。

キリストに従う者たちが、人間ではあるけれども神の性質にあずかる者であることを示すとき、キリストはおよろこびになる。彼らは像ではなく、生きた男女である。彼らの心は神の恵みの露によって生き生きとなり、義の太陽キリストに向かって開き、成長するのである。彼らは自分たちを照している光を、キリストの愛に輝いている働きを通して、他人に反射する。(各時代の希望上巻 178, 179)

聖徒や殉教者たちの行なった信仰の告白は、後の時代のために記録された。これらの人々の聖潔とゆるがぬ誠実の生きた模範は、今日神のための証人として立つように召された者たちを励ますために、語りつながってきた。彼らが恵みと真理を受けたのは、自分たちのためだけでなく、彼らを通して、神の知識が地を輝かすためであった。神は、この時代の神のしもべたちに、光を与えておられるであろうか。それならば、彼らは世界にそれを輝かさなければならない。(各時代の大争闘下巻 184)

わたしたちは、主が世に光と恵みを送ることができる水路となっているべきである。……完全な結合のうちに混ぜ合わされ、一体となって行動している教会全体は、聖霊によって動かされ、支配されている生きた活動的な伝道機関である。(教会への証 8 巻 46,47)

## 神の同労者

「わたしたちは神の同労者である。」(コリント第一 3:9)

神は、すべて真実な心をもつ者、すなわちキリストの恵みの完全さのうちに、神のみ前に歩もうと努めている熱心な一人びとりの魂を尊び、支えられる。このお方はへりくだって震えている魂を決して一人も放っておいたり、見捨てたりはなさらない。わたしたちは、このお方がわたしたちの心のうちに働かれることを信じるのであろうか。このお方がそうなさることを、もしわたしたちが許すなら、その豊かな恵みによって、ご自分との共労者となる資格を得させつつ、わたしたちを純潔で聖なる者にしてくださることを信じるのであろうか。わたしたちは、鋭敏な聖化された知覚力をもって、そのみ約束の力強さを感謝し、わたしたちに価値があるからではなく、生きた信仰によってわたしたちがキリストの義を主張するがゆえに、それを自分のものとしてすることができるのであろうか。(神のむすこ娘たち 192)

神は昔、その民に光をお与えになったとき、一つの階級にだけ限定され、それを通して働きになったのではない。ダニエルはユダの貴族であった。イザヤも王族の生れであった。ダビデは羊飼いの少年であり、アモスは牧夫、ゼカリヤはバビロンよりの捕虜、エリシャは農夫であった。神は自分の代表者として預言者、王族、高貴な人、貧しい人を立て、世に伝えるべき真理をお教えになった。神の恵みにあずかるすべての者に、主は人のために働く任務をお定めになっている。……

神の摂理にしたがって、自分の召されたところで働けるように全員が体力と知能をできる限り発達させるべきである。パウロとアポロがキリストから受けた恵み、すなわち、ふたりを霊的に卓越させ、有名にしたのと同じキリストの恵みが、今日、献身的クリスチャンの伝道者に向かって与えられる。まちがうことのない明るさと力をもって神の栄光が今の世に示されるために、神の子が知恵と知識を有するように神はお望みになっている。

学校教育に乏しく、社会的地位も低い人がキリストの力によって人の魂を神に導くのに非常な成功をあげることがある。その成功の秘訣は神に対する信頼である。立派な相談相手であり、力に満ちておられる神から日々教えを受けたのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 119～123)

キリストを心にやどしている者、キリストの愛をこの世に示す者はみな、人類の祝福のために神と共に働く者である。他の人々に分け与えるために救い主から恵みを受けるとき、霊的のいのちの潮が彼の全身からあふれ出るのである。(患難から栄光へ上巻 5)

## 人間をとる漁師

「イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。(マタイ 4:19)

新しく改心した魂の内にある神の恵みは、漸進的である。それは、柁の下に隠すためではなく、他の人が益を受けることができるように、分け与えるために受け入れられた恵みを増し加える。真に改心している者は、暗闇の中にいる他の人々を救うために働く。(伝道 355)

だれかの人生に危機が訪れ、あなたが勧告や訓戒を与えようとするとき、あなたのことばは、あなた自身の模範と精神とが示すことができるだけしか善への影響力を持たない。あなたはよいことをなし得る前に、よい者とならねばならない。あなた自身の心がキリストの恵みによって謙そんにされ、清められ、和らげられるまでは、あなたは他の人を変化させる感化力を及ぼすことはできない。この変化があなたのうちに起こる時、あなたが他の人々を祝福するために生きることは、ばらの木がかおりのよい花を咲かせるのは……自然なこととなるであろう。(祝福の山 159)

心が神の恵みと滅びつつある同胞への愛に満たされている者は、自分が置かれている場所がどこであっても、疲れている者におりになかった言葉を語る機会を見いだす。クリスチャンは人生の騒音と喧騒きのただ中でも自分の高潔さを堅く保ち、柔和とへりくだりをもって、主人であるお方のために働くべきである。(レクテッド・メッセージ 1巻 89, 90)

わたしたちは他人の弱さを理解するように努めなければならない。暗黒の鎖につながれてきた人々、決断力も道徳力もない人の心中の試練をほとんど知らない。……

わたしたちの努力にすぐ応じない人に会うと、失望してしまう。一筋の望みでもある間はその魂のために力を尽すのを決してやめてはならない。尊い魂を軽々しく誘惑者の手に渡してしまうには、あまりに高価な値が自己を犠牲にされたあがない主によって払われている。……多くの者は、助け手なしに自力で更生しようとしていないが、忍耐強い不断の努力によって救うことができるかもれない。こうした人はやさしい言葉、親切な思いやり、また確実な助けを必要としている。……キリストは最も罪深い人でも向上させ、神の子と認められる域にまで進め、キリストと共に不滅の遺産を受け継ぐ者となることができるのである。神の恵みの奇跡によって、多くの者が有益な生涯にふさわしい者となることができる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 143～145)

## 完成された働き

「彼は『恵みあれ、これに恵みあれ』と呼ばわりながら、かしら石を引き出すであろう。(ゼカリヤ 4:7)

人間の力が神のみ働きを確立したことはなく、またそれは破壊することもできない。困難と反対に直面して神のみ働きを前進させる者に対して、このお方は聖天使たちの絶え間ない導きと保護をお与えになる。地上におけるその働きは決して止むことがない。このお方の霊の宮の建物は、完全にできあがるまで前進し、かしら石は「恵みあれ、これに恵みあれ」と呼ばわりながら引き出されるであろう。(教会への証 7 巻 170)

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらゆる器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。……

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別な働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくし、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。(患難から栄光へ下巻 308)

キリストは、ご自分の満ちみちた力によってご自分の民が強められ、彼らを通して全世界が恵みの大気に包まれるようにと望んでおられる。その民がこのお方に真心からひれ伏すとき、この目的が成就する。……キリストが人間のうちに宿られ、人間がキリストのうちに宿る。すべての働きの中に、有限な人間の品性ではなく、無限の神のご品性が現れる。……

神の力によって働いた品性の美しい織物は、天からの光と栄光を受け、生ける神の御座を指し示している証として世の前に立つ。そのときその働きは堅固さと倍加した力強さで前進する。(教会への証 7 巻 148, 149)

## 研究 4

「後の雨を受けるためのわたしたちの準備 (IV)」



## 忠実な管理

## 一万物の所有者

自然界の所有者—「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである」(出エジプト 19:5)。「地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである」(レビ記 25:23)。「しかしわれわれがこのように喜んでささげることができても、わたしは何者でしょう。わたしの民は何でしょう。すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです」(歴代志上 29:14)。「銀はわたしのもの、金もわたしのものであると、万軍の主は言われる」(ハガイ 2:8)。

被造物の命の所有者—「愚かな知恵のない民よ、あなたがたはこのようにして主に報いるのか。主はあなたを生み、あなたを造り、あなたを堅く立てられたあなたの父ではないか」(申命記 32:6)。「見よ、すべての魂はわたしのものである。父の魂も子の魂もわたしのものである。罪を犯した魂は必ず死ぬ」(エゼキエル 18:4)。「わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである」(ローマ 14:8)。

## 人—神の管理人

管理は管理人の働きであり、ラテン語の二つの言葉（家庭における最も偉大な者）からなっています。辞書では管理者と定義しています。

神のみ言葉はそれを「地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである」とはっきり述べています（詩篇 24:1）。

自分の創造主のみ前における人の責任を理解するために、このことははっきりと自覚すべき最初の教えです。世界とその中に住むもの、人は存在そのものも所有するものすべて、創造と贖い両方によってことごとく主に属するのです。

神はご自分の無限の知恵と愛のうちに、この偉大な真理をたえず人に思い起こさせるために様々な方法をお用いになります。すなわち、ご自分があらゆる物とあらゆる人の所有者であられ、またご自分の祝福を人の手の届くところにおいてくださったこと、それは、人が神の所有物の管理者として行動することによって、自分の造り主と同様の利他的（利己的の反対）な品性を自分の創造主にお返しすることができるためであること、ということです。

人が、不信とその結果生じる不従順によって利己的になる前でさえ、神は七日目の安息日、すなわち特別に神とのへだてのない交わりに捧げられるべき週の一部を人にお与えになりましたが、それはその時間が神に属することを思い起こさせるためでした。神はまた人が善悪を知る木に触れることを禁じられましたが、それは人が所有者なのではなく、神によって造られたものの単なる管理者であるという教えを学ぶことができるためでした。

聖書は「主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。……そして主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた」とわたしたちに告げています（創世記 2:8, 15）。

創造以来、神は人をご自分の所有物の管理人あるいは管理者とされました。神が人に「地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」とお命じになったとき、このお方は本当に人を、地上に創造なさったわざのすべての統治者として制定しておられたのです。

神を信じないで、サタンのほめかしを受け入れることによって、人は邪悪な者が神から横領していた地上の統治権を、公式に暗黒の君に手渡ししてしまいました。しかし、主はサタンにも人にも—今やサタンの奴隷にされた者ですが—その

どちらにもエデンにとどまることをお許しになりませんでした。神は彼らをエデンから追い出されたのです。

人は今、敵によって墮落させられた性質を持っていますが、まだ自分の愛する天父に見捨てられてはおらず、むしろ新しい教訓と制約を受けています。人の回復と発達は、有罪を宣告された人類の救いのためにご自分の純潔で完全な命をおさげになるキリストの恵みを通して可能となりました。

## 家庭、健康、時間の管理

神がエデンで制定なさった制度、すなわち 1) 結婚、2) 自然と調和した命、3) 七日目の安息日を守り聖別することは、みな人間の墮落後もそのまま残っていますが、これは万物が創造主に属しているということ、また神の恵みを通して、人は天父のご品性のような利他的で美しい品性を発達させることができるというこの真理を人に忘れさせないためでした。

人にその食事に関するご自分のご計画を授けるにあたって(創世記 1:29)、神はご自分の子らが自分自身の健康に注意し、精神の能力を良い状態に保つことができるために、ご自分の理想をお示しになりました。それは創造主との効果的な交わりを維持し、自分の体を自分の好きなように扱わないためでした。人の体はその人に属しているではありません。わたしたちが使徒パウロの「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである」という靈感の言葉を熟考するとき、この真理がはつきりします(コリント第一 3:16, 17)。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:19, 20)。

管理には、自分の身体になすべき配慮も含まれています。すなわち、聖霊によって聖化された理性の支配下のない食欲と情欲を通して体に害を及ぼす可能性のある一切のことから身体を守ることです。

結婚もまた管理という神のご計画に含まれています。神が人に連れ合いとして

一人の妻をお与えになったという事実は、人間がキリストの恵みによって不節制の致命的な結果からまぬかれるとき、真の幸福に到達することを可能にします。神のみ言葉はわたしたちの子どもわたしたちに属するのではなく、「主の嗣業」であることを明らかにしています。

## 財産と資産

罪の後、神は人の罪深い性質から利己心を取り除きたいと願われて、もう一つの方法を制定なさいました。それが、組織的な慈善です。

什一と捧げ物の制度は人間の益と幸福のために制定されました。わたしたちがクリスチャンの管理という利他的な主題を研究するとき、次の原則を覚えておくべきです。すなわち、わたしたちがどのような捧げ物を主にお返しするときでも、それが大きくても小さくても、その前にまず自分自身を主にお捧げするときのみ、その捧げ物が主に喜ばれるものになるということです。

アダムのはじめの子供たちが主のところにもってきた捧げ物についての聖書の記録の中に、わたしたちはこの重要な真理を見出します。「アベルもまた、その群れのういごと肥えたものを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかった」(創世記 4:4, 5)。神はカインの捧げ物をお受け取りになる前に、まずアベルをお受け入れになりましたが、それはアベルが自分のための神の備えを受け入れていたからでした。カインの捧げ物が拒否される前に、神はカインがイエス・キリストによる自分の救いのための神の備えを拒否していたという事実のゆえカインを拒否しておられました。

神の優先順位に注意しましょう。第一が捧げる者で、第二が捧げ物です。捧げる者の状態が主にとっては最も重要です。捧げ物が受け入れられ、祝福されるのは、捧げる者の心が悔いた心であって、聖化するイエスの血のしずくによって神のみ前に純潔にされているときのみです。

主イエスもまた「だから、祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行ってその兄弟と和解し、それから帰ってきて、供え物をささげることにしなさい」と言われたとき、この真理を指摘なさいました(マタイ 5:23, 24)。

神は捧げられた捧げ物の総量でわたしたちを評価なさるのではなく、捧げる者の心の意図と誠実さで評価なさいます。

使徒パウロもマケドニアの信者に言及したとき、「すなわち、彼らは、患難のために激しい試練をうけたが、その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。わたしはあかしするが、彼らは力に応じて、否、力以上に施しをした。すなわち、自ら進んで、聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと、わたしたちに熱心に願い出て、わたしたちの希望どおりにしたばかりか、自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである」と述べて、この原則を明確にしました（コリント第二 8:2～5）。

上記の聖句からいくつかの鍵になる表現に焦点を当ててみましょう。

「その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となった」

「自ら進んで」

「聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと、わたしたちに熱心に願い出て、わたしたちの希望どおりにした」

「自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである」

これらの必要不可欠な学びに重点をおきましょう。

### 1) 物惜しみをしないことの富

テサロニケの兄弟の精神はさもしきやどん欲のない、物惜しみをしない精神でした。彼らは財産は乏しかったけれども、自分たちが持っている金銭以上に与えました。

### 2) 喜んでする精神

この兄弟たちは捧げることを強いられたのでもなければ、特別な働きかけの下で捧げたのでもありませんでした。人の救いのためにイエスがご自分の持っていたすべてをお与えになったことを理解して、自分のためにご自身の尊い命を与えてくださった愛する主人の働きのためにすべてを喜んで行い、すべてを喜んで捧げたのです。

### 3) 神のみわざに参与する特権

テサロニケの人々は他の地域にいるより恵まれていない人々のための働きに参

与する特権を熱心に求めました。

#### 4) 主への完全な屈服

ここで使徒はこれらの兄弟に克己を実践するよう駆り立てた動機の基調に触れています。すなわち、彼らはまず自分自身を主に捧げたのでした。

### 福音の管理

自分たちに与えられてきた永遠の福音の知識を伝えるというわたしたちの義務がここに含まれています。「わたしが福音を宣べ伝えても、それは誇にはならない。なぜなら、わたしは、そうせずにはおれないからである。もし福音を宣べ伝えないなら、わたしはわざわざである。進んでそれをすれば、報酬を受けるであろう。しかし、進んでしないと、それは、わたしにゆだねられた務なのである」(コリント第一 9:16, 17)。

「かえって、わたしたちは神の信任を受けて福音を託されたので、人間に喜ばれるためではなく、わたしたちの心を見分ける神に喜ばれるように、福音を語るのである」(テサロニケ第一 2:4)。

### 管理の責任

それは個人的—「父は子のゆえに殺さるべきではない。子は父のゆえに殺さるべきではない。おのおの自分の罪のゆえに殺さるべきである」(申命記 24:16)。「たといわたしが、まことにあやまったとしても、そのあやまちは、わたし自身にとどまる」(ヨブ 19:4)。「もしあなたに知恵があるならば、あなた自身のために知恵があるのである。もしあなたがあざけるならば、あなたひとりがその責めを負うことになる」(箴言 9:12)。「人はめいめい自分の罪によって死ぬ。すっぱいぶどうを食べる人はみな、その歯がうく」(エレミヤ 31:30)。「罪を犯す魂は死ぬ。子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。義人の義はその人に帰し、悪人の悪はその人に帰する」(エゼキエル 18:20)。

「また天国は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預けるようなものである。すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た」(マタイ 25:14, 15)。

「そこで十人の僕を呼び十ミナを渡して言った、『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい。』」(ルカ 19:3)

## 忠実が要求される

「この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである」(コリント第一 4:2)。

## わたしたちは管理人として仕えるべき

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである」(ペテロ第一 4:10)。

## 報告書を提出

「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」(マタイ 12:36)。

「それだから、天国は王が僕たちと決算をするようなものだ」(マタイ 18:23)。

「すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか。』」(ルカ 12:20)。

「しかし、知らずに打たれるようなことをした者は、打たれ方が少ないだろう。多く与えられた者からは多く求められ、多く任せられた者からは更に多く要求されるのである」(ルカ 12:48)。

「さて、彼が王位を受けて帰ってきたとき、だれがどんなもうけをしたかを知ろうとして、金を渡しておいた僕たちを呼んでこさせた」(ルカ 19:15)。

「だから、わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである」(ローマ 14:12)。

「彼らは、やがて生ける者と死ねる者とをさばくかたに、申し開きをしなくてはならない」(ペテロ第一 4:5)。

## 過去からの有益な教訓

「集会在二週間毎日二回天幕で行われてきた。そして、与えられたメッセージが心をつかんでいた。なされた証には正しい響きがあった。わたしはこの良い働きを主に感謝している。わたしたちはまた天幕で特別な集会所もいくつか行った。この教会は大きかったので、わたしたちは安息日の午後、人々に祈るために前に出るよう呼びかけた後で、旧年の最後の安息日に、告白をしなければならないと感じていた人々を、祈祷会室のひとつに入るよう招待した。そしてここで彼らに特別の機会が与えられた。わたしはマラキ書の「人は神の物を盗むことをするだろうか」「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふれる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる」という箇所をその前に語っていた。多くの告白がこの点についてなされた。」

「ある人々は隣人と正直な取引をしていなかったもので、自分の罪を告白し、そのときからの分を弁償した。翌週には、神と正しく取引をしてこないで、その結果自ら神を離れていた人々のうちある者たちは、出さずにいたものを返還し始めた。ある兄弟は什一を二年間払っていなかった。彼は自分が保留していた什一とその利子の合計金額を記した小切手を総会の書記に渡したが、その金額は571ドル50セントであった。わたしは彼がこうする勇気をもっていたことを神に感謝する。別の人には300ドルの小切手を渡した。これまで神から背教してきて、ふたたび義の道に足を踏み入れようとは、ほとんど望みをいだいていなかった他の人は、千ドルの小切手を渡した。これらの長く保留されていた什一と捧げ物は、中央ヨーロッパミッションに捧げようと提案された。そのため、これらとクリスマス寄付を合わせて、6千ドルが伝道の働きに用いられるためにこの教会から教会の金庫に入った。

「キリストを信じる信仰によって生きる魂は、神のみ旨を知ってこれを行うこと以外のことも、またそれ以上に良いことも願わない。キリストを信じる信仰が、働きによって完成されるようにというのが、神のみ旨である。神は、信じる人々の救いと永遠の命を、これらの働きと結びつけ、そして彼らを通して真理の光があらゆる国々と人々にいきわたるように提供なさる。これは神の御霊の働きの実である。」(教会への証5巻643, 644)

## 忠実な管理人の報い

「伝道地に入る誠心誠意で無我の働き人のために、またこれらの働き人を支えるために喜んで援助する人々のために報いがある。伝道地で活発に奉仕に携わる人々、またこれらの働き人たちを支えるために自分の財産を捧げる人々は、忠実な者の報いを分かち合うのである。」

「自分に委ねられた財産を賢く管理する管理人はみな主の喜びに入る。この喜びとは何であろうか。―「よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう」。魂を忠実に勝ち取る者には祝福された賞賛、聖なる祝祷がある。彼らは、天で喜んでいる者たち、収穫の完了を喜んで叫ぶ者たちに加わる。主に贖われた者がみなあいまみえるとき、一自分たちのために備えられた住居に集められるとき、どれほど大きな喜びがあることであろうか。ああ、地上で神の働きを前進させるにあたって、神と共に働く公平で無我の共労者であったすべての者に何という喜び、歓喜があることであろう。イエスのよくとおる音楽のようなみ声が「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」、「あなたの主の喜びに入れ」というのが聞こえるとき、収穫者はみなどれほど満ち足りることであろう。

「贖い主は無駄に死なれたのではなかったもので、栄光をお受けになる。嬉しい、喜ばしい心で、神との共労者であった人々は、滅びつつあった死にいく罪人のための自分たちの魂の労苦を見て満足する。彼らが過ごした心痛の時間、彼らがあわねばならなかった困惑させるような状況、ある人々が自分の平安となることながらを見て受け入れることを拒んだがゆえに感じた心の悲しみは忘れてしまう。彼らが働きを支えるために実践してきた自己否定はもはや思い出されることはない。自分がイエスに勝ち取ろうと努めた魂を彼らが見るとき、そして彼らが救われたのを、永遠に救われたのを見るとき、一神の憐れみと贖い主の愛の記念塔一を見る時、天蓋（てんがい）に賛美と感謝の叫びが鳴り響くのである。（ビュー・アブド・ハド 1907年10月10日）

クリスチャンの管理の重要な分野におけるわたしたちの欠点や不忠実を自覚するために、神がわたしたちに靈的識別力の目薬を賜いますように。このお方がわ

わたしたちの心に信仰と愛の金を吹き込んでくださり、それによって、わたしたちが真に自己否定的な管理を実践することができますように。そして最後に、このお方が完全にわたしたちをご自分の義でおおってください、わたしたちを神の裁きのときに自分の管理の会計報告を出す価値のあるふさわしい者としてくださいますように！

(52 ページの続き)

ある鳥は、あまりよい性格ではありませんが、それでもイエスは同じようにそれらの鳥も面倒を見てくださいます。たとえば、アオカケスがそうです。アオカケスは、みかけはきれいなのですが、他の鳥に対していじわるで、たまごを盗みます。

おそらく、すべての鳥のなかで一番美しいのは、孔雀(くじゃく)でしょう。オスの孔雀が、豪華でいろとりどりの尾を広げるとき、わたしたちはその素晴らしさに息をのみます。それでも、神様は一種類の鳥に、どんな人にでも与えられている賜物をすべて与えることはなさいませんでした。孔雀はあまりかしこくありませんし、目をうばうような外見にみあうような歌声もありません。

わしは、あらしの雲をつきぬけて高く上り、山の上にある日を浴びた巣に帰るときの強さと勇気を称賛されます。これは、わたしたちに、やみと暗がりの時に捧げる信仰の祈りが、どのように「天からの光を魂にもたらすか」を思い起こさせるのです。「信仰のうちにささげられたすべての祈りに対して、平安が訪れる。魂はやみとあやまちの雲の上に」神様のご臨在(りんざい)の日光のうちに「引き上げられる」1

はとは、多くの人が大切にしている資質をもっています。伝書ばとは、人のために役立つ使者であることがわかります。はとは、平和や聖霊の象徴(しょうちょう)として用いられています。お父さんばと、もしくはお母さんばとは、一生の間、共に過ごします。ちょうど聖霊がわたしたちのかたわらにあって、神様の愛をわたしたちにあらわしてくださるようです。お母さんばとが巣をつくっているあいだ、お父さんばとは、空高く円をえがいてとびかけり、できるかぎりの声を上げて高らかに歌います。お父さんばとがこのように歌うのは、一年のうちでこの時だけです。それはあたかも、お父さんばとが自分の赤ちゃんたちのことを考えて、喜んでいるかのようです。お母さんのように、お父さんも子供たちにえさをやるのを手伝い、自分自身ののどからでる液、「作物」あるいは「はとのミルク」をあげます。ほかの鳥は、このような方法で赤ちゃんたちにえさをやることはありません。これによって思い出すのは、「あなたのために喜び楽しみ、……あなたのために喜び呼ばわれる」天のお父様、また「混じりけのない霊の(み言葉の)乳」をもってゆたかに養ってくださる天のお父様の愛です(ゼパニヤ 3:17; ペテロ第一 2:2)。

## 主食にもなる全粒粉クラッカー

### 材料

A 薄力粉 400g

全粒粉 100g

B 油(ひまわり、紅花、オリーブなど)100g

水 1カップ

塩 大さじ1強

### 作り方

1. ボールに A を入れ、泡立て器で混ぜておきます。
2. 別のボールに B を入れ、これも泡立て器で混ぜます。
3. 1に2を入れて混ぜ合わせます。固ければ、油を加え、やわらかければ、粉を足してひとまとめにします。
4. できあがった生地(ひとまとめにしておいたもの)を四等分にして、一つを直径 25cm 位に丸くのばします。厚さは薄ければうすいほどおいしくなります。
5. うすく、丸くのばした生地を鉄板にのせて、ケーキを切るように、三角に切り、フォークで穴を開けます。
6. 180度のオーブンで20分くらい焼きます。こんがりきつね色になればできあがりです。

残りの生地も同様に焼いて下さい。

おすすめです!



## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## お気に入りの羽で飾った鳥



「空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。」(マタイ 6:26)

**前** 回のお話コーナーで、神様が創造してくださった鳥についてのシリーズが始まりました。鳥から学ぶことのできる興味深いことはいくつもあります。なかでも悟るべき最も重要なことは、わたしたちの愛する創造主が、どれほど彼らを心にかけておられるかということです。人として、わたしたちはあまりにもしょっちゅう、何が食べたいか、どの服を着るかについて心配しすぎます。しかし、イエスはそのかわりに、ご自分がどれほど鳥を世話しておられるかをみなさいと言われます。このお方は鳥に食べ物やそなえ、飛んだり、保護したり、温まったりするのに必要な羽を与えてくださいます。そして、わたしたちを愛するこのお方の愛は、鳥を愛するよりはるかに大きいのですから、わたしたちにも必要なものはすべて与えてくださるのではないのでしょうか。

聖書は、次のように述べています。「こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである」(マタイ 5:45)